

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心もからだも元氣な子	「いっしょにやろう」を一緒に～人との関わりを愉しむ子をめざして～	園児は園や地域の人・物・事との関わりの中でやりたい遊びを見つけ、試行錯誤しながら遊んでいる	毎週末に園庭会議を行い環境を見直したり園庭の使い方を共有したりすることで、友達や異年齢児の遊びに刺激を受け「もっとこうしたい！」という思いをもち、自分で考えて選んだり試したりと工夫しながら遊ぶ姿が増えている	A	A	重点目標の「いっしょにやろう」と一緒にというのが、とてもわかりやすい。職員が軸をもって取り組んでいることがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週園庭会議を実施（環境の見直し・改善） ・土土JOBでの経験を遊びの中で活かす（年間計画にとりくむ） ・クラス伝え合いタイムや乳児・幼児会議の中で事例検討や子どもの姿・遊びの振り返りを行い、子ども理解を深める ・可動遊具の教材研究（他園見学・学びの実践） ・乳児、幼児会議の事例検討の中で室内遊びの工夫も話し合う
		園児は友達や保育者と一緒に、相手の思いを聞いたり、自分の思いを表現したりしながら関わることを愉しんでいる	発達に合わせたサークルタイム、絵本の読み聞かせの会（幼児）の実施、子どもの姿から思いを汲み取って関わるようにしたことで、自分なりに考えて言葉で発信したり友達の話を聞くうしたりする姿が増えた	A	A	職員が子どもと関わりを生む、つなぐ、見守ることが自然にできている	
		園児は、「いっしょにやろう」と友達や保育者と体を動かすことを喜び、仲間との活動が広がっている	月案検討で遊びの話し合いを行い、環境準備、可動遊具の出し方・置き方の工夫、遊びの拠点づくりをすることで各学年の遊びが保障され、他学年とも関わりをもちながら遊んでいる。また試行錯誤しながら遊ぶことを楽しむ姿が増えている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育教諭は、育ちのつながりを意識し、学年目標に向けて教育・保育を行っている	乳児・幼児、月案、学年、異年齢など各種会議を毎月実施し、育ちのつながりや学年目標に向けた振り返りと見直しをもつことで、一人一人の姿を肯定的に捉え、個に合った関わりをもつことができた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性が良い。異年齢との関わりの中で、自然の中で教えてもらう経験ができている ・野菜の栽培など、体験できることが良い。土遊びの中で虫を見つけたり、地域の高校生とジャガイモ植えを通してのやりとりなど互いに良い経験になる ・職員間で様々なことを共有しているのが伝わってくる。子どもと毎日の出来事を話している中で、先生達が子どものことを考えてくれていることがわかる ・土土JOBが良い取り組み、地域を巻き込んで経験している。経験から遊びになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会議や乳幼児会議の際に、学年目標に向かう今の姿の段階や次の目標に向けた手立ての話し合いも実施。また4か月に1度スタートカリキュラムの見直しも行っていく ・季節や行事が感じられるような遊びを取り入れる ・ボードの名前にマーカーを引く等を徹底し、内容によっては担任から伝達をする ・月案検討時に今の子どもの姿に適した素材や玩具の用意、環境整備（乳児、幼児会議） ・子どもが扱いやすい可動遊具を用意する ・環境の見直しを行う日をつける
		保育教諭は、子ども一人一人が主体的に園生活が送れるために、在園時間や個々の生活環境の違いを理解し、教育・保育を実施している	早速プロジェクトを中心に、環境の見直しや職員配置の見直しを行い、家庭環境や保育時間等、個に合わせた保育を行うことで、一人一人が安心して過ごしている。職員間の情報共有の徹底とともに玩具の見直しを引き続き行っていく	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員プロジェクトが、時間軸・場面などを変えてそれぞれが進んでいることで、子ども達の遊びや生活に生きている ・コードモンの配信、玄関の掲示に写真が多く、保護者が見やすく工夫して作っている。掲示をスマホで写真をとって家に持ち帰り、家族間でも共有できている 	
		保育教諭は、今日の楽しかった姿から明日の遊びを子どもと一緒に考え、遊び出しの環境を作っている	遊びのつながりを意識した環境の準備や声掛けの工夫をしたり、遊び出しの強化を行ったことで、自分で遊びを決め必要なものを用意して繰り返し遊ぶ姿や、準備から片付けまで遊びとして楽しむ主体的に行う姿が見られている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の取り組み方を先生達がすごく考えているのがわかる。行事までの間、子ども達がいろいろ考えて取り組んでいる ・土土JOBは、園に対して受け身だった保護者が参加することで、園の中に入り、園のこと・子どものことをもっと知ることができる良い機会だった ・園にはいつも期待している。小学校もすごく刺激をもらっている。園の公開保育・事後協議に参加した一年部の職員が、「園がよかった」と評判をたて、他学年の職員からも「是非公開保育に行きたい」という意見がでたので、来年もお願したい 	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、発災時、全職員が危機管理体制がとれるように、定期的に安全点検や避難訓練等を実施し、自ら考え行動できるようにしている	毎月様々な災害を想定し訓練を行ったり、乳児組では押入れをシェルターとして活用する等、課題をタイムラグなく話し合うことで災害や緊急時に備えることができた。さらに様々な状況での不審者侵入訓練を実施していく	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練の回数を増やす（隔月1回） ・訓練→気づき→改善を繰り返し考えていく ・各クラスで挙がった反省のキーワードを話し合う場を設けていく 	
		園児は、健康生活に必要な様々な習慣や食への関心をもち、自分でやってみようとする意欲が育っている	五感を使った食育活動（出汁の試飲、みかん湯体験など）や野菜の栽培活動を通して、野菜の生長を楽しみにしたり収穫を喜び食べる意欲へつながったりと食への興味が広がっている。計画的にクッキングの機会を増やしていく	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣については低年齢の時から丁寧に伝え、積み重ねていく ・収穫前に子どもたちと計画を進め、クッキングの機会を持てるようにする 	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、一人一人の育ちや家庭環境を理解し、適切な関わりやすべての園児が過ごしやすい環境作り（UD）の改善を行っている	支援児担当者会議に乳児組職員も参加し個の姿や育ちを共有していくことで、職員が支援や言葉掛けの意識がもてるようになってきている。来年度は支援方法についての知識を深め、個に合わせた支援方法の工夫を行っている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や園内研修で子どもの姿や支援方法を伝え、同じ支援が出来るようにしていく ・事例検討をし個に合った関わり方を検討する 	
		保育教諭は、組織での自身の役割を理解し、計画の見直しと責任を持って取り組み、定期的に全職員で進捗確認をしながら行っている	プロジェクト、分掌など担当しながら計画的に進めていくことで、土土JOB（保護者の方の職業体験）という新たな取り組みも積み重ねることができた。進捗状況や仕事内容を職員間で共有するスケジュール表の統一を徹底していく	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌に乳児組やフリーも入り行事の仕事分担 ・会議の際にやることをタイムリーに進める ・やることリストやスケジュールの継続、統一 	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、安心・安全な園庭・室内環境作りのために、ヒヤリハットを検証し、原因を職員間で周知し、改善を行っている	職員会議やクラスの伝え合いでヒヤリハットを共有し、タイムラグなく危険箇所を話し合ったり改善したりと、安全な園作りを進めた。ヒヤリハットの提出率が低いため、週1枚以上の提出など回数や枚数を決めて取り組んでいる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・書類内容の簡素化（見直し、土台作成） ・視点について話し合う時間、学年目標に対しての検証などをする時間も確保 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに『今日のヒヤリ』を挙げ、タイムラグなく改善する ・週1枚以上の提出など回数や枚数を決める 	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は、重点目標や研修テーマの実現に向けて、園内研修を通して子どもの姿や遊びを語り合う機会が増えた。研修の進め方も確立され、全職員が見直しをもって取り組むことができた	公開保育の学びを各学年の学びにつなげ、PDCAサイクルを活用し再度園全体で共有していくことで方向性が統一され、子どもの姿や遊びを語り合う機会が増えた。研修の進め方も確立され、全職員が見直しをもって取り組むことができた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
		園は、近隣園・連携園・学校との連携を図るために、園見学や公開保育・公開授業等に参加しあい情報共有を行っている	近隣園との交流を定期的に行うとともに、一時保育の受け入れやおしゃべりサロンを実施し、情報交換の場としたり気軽に園に遊びに来れるようにしたりした。公開保育で小学校の職員と一緒に語り合い、幼小連携を進めることができた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他園見学は各学年チームから一人ずつ参加 ・同じ支部の園に環境を見に行く ・地域の交流園と連携し、職員同士で園を見合う機会を作る 	
6 研修	(1)研修体制の充実	園は、安心・安全な園庭・室内環境作りのために、ヒヤリハットを検証し、原因を職員間で周知し、改善を行っている	職員会議やクラスの伝え合いでヒヤリハットを共有し、タイムラグなく危険箇所を話し合ったり改善したりと、安全な園作りを進めた。ヒヤリハットの提出率が低いため、週1枚以上の提出など回数や枚数を決めて取り組んでいる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに『今日のヒヤリ』を挙げ、タイムラグなく改善する ・週1枚以上の提出など回数や枚数を決める 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、安心・安全な園庭・室内環境作りのために、ヒヤリハットを検証し、原因を職員間で周知し、改善を行っている	職員会議やクラスの伝え合いでヒヤリハットを共有し、タイムラグなく危険箇所を話し合ったり改善したりと、安全な園作りを進めた。ヒヤリハットの提出率が低いため、週1枚以上の提出など回数や枚数を決めて取り組んでいる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに『今日のヒヤリ』を挙げ、タイムラグなく改善する ・週1枚以上の提出など回数や枚数を決める 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、日々の遊びや生活の中で地域の方とのつながりを深め、親しみを感じながら豊かな生活体験ができる機会を設けている	土土JOBや誕生会、食育の会では保護者参加型の行事として行い、子どもと保護者、地域の人をつなぐことができた。様々な人、子ども、こととの関わりの中で、経験したことや体験したことが遊びにつながっている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・土土JOBのドキュメンテーションだけでなく、事後のドキュメンテーションも掲示する ・地域の施設に訪問する機会を増やす 	
		園は、保護者と遊びのおもしろさや子どもの育ちを共有できる関係作りのために、遊びや生活の様子を情報発信している	コードモンでの配信や玄関ホールでの日々の遊びやドキュメンテーションの掲示を通して、保護者とともに子どもの育ちやクラスの様子を共有することができ、保護者と子どもの会話のきっかけとなっていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報過多になりすぎないよう掲示の入れ替えと内容の精査 ・天気や曜日を考慮して掲示（駐車場に配慮） ・乳児クラスの掲示の工夫 	